

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530176

研究課題名(和文) グローバル化時代の新しいレイシズム：ファシズムと北部同盟の比較研究

研究課題名(英文) The New Racism in the age of globalisation: Comparison of Lega Nord and Fascism

研究代表者

高橋 進 (TAKAHASHI, Susumu)

龍谷大学・法学部・教授

研究者番号：30136577

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円、(間接経費) 660,000円

研究成果の概要(和文)：イタリアの北部同盟を例として、グローバル化時代の新右翼政党の思想・言動における「新しいレイシズム」とファシズムとの歴史的・理論的比較研究を行った。

北部同盟は地域主義と移民排除・レイシズムの二つの特徴を持つ。地域主義の要求は2000年代初めの憲法改正で州自治権を拡大したことにより、北部同盟の存在理由が弱まり、北部同盟はその独自性を人種主義と移民排除に求めた。ファシズムの人種主義は反ユダヤ主義とアラブ・アフリカ人への蔑視と抑圧が併存していたが、アフリカ人への人種主義の激しさで北部同盟と連続している。

研究成果の概要(英文)：I carried out the comparative study between racism of Lega Nord and that of fascism historically and theoretically. Racism of Lega Nord is a typical example of "new racism" of the new European right parties in the age of globalism.

Lega Nord has two features, regionalism and racism. The Revision to the Constitution in the 2000s enlarged the power of local governments and regions. After that, Lega Nord intensified racism, anti-immigrant and xenophobia. Fascism had two racism, that is, anti-Semitism and racism for Arabs and Africans, the latter is very strong and common to Lega Nord.

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学

キーワード：新しいレイシズム 北部同盟 グローバル化 ファシズム 新右翼

1. 研究開始当初の背景

イタリアの北部同盟は1990年代に台頭し、2001年以後、中道右派連立政権の一翼を担うだけでなく地方自治体の行政も掌握し、政党システムの中に定着した。また、北部同盟は、ヨーロッパで拡大するゼノフォビア・ポピュリズムの急進右翼政党の先駆者として、他国の急進右翼政党と連携を取りつつ、反移民・反イスラムの運動を展開し、現実政策にも影響を及ぼしている。

北部同盟に関して1990年代以降、地域主義、エスノ・ナショナリズム、反移民などのイデオロギー、支持層や党構造の研究が行われてきたが、それらは主に政党システムの視点からの分析であった。また、ヨーロッパの急進右翼の思想やポピュリズムの比較研究はあるが、これまで概して、グローバリズムとの関係で論じられてきた。

日本での北部同盟に関する研究は、1990年代の状況についてだけであり、その後の展開と変容についての研究はない。また、その研究には新しいレイシズムの視点はない。ファシズムのユダヤ人迫害については、その事実の叙述はあるが、ファシズム期の人種政策やレイシズムの歴史・理論研究はない。

しかし、本研究者が北部同盟の研究を進める中で、イタリアだけでなく、現代ヨーロッパにおける社会的排除の思想の根底にあるレイシズムの深さと新しさ、多様性と共通性を理解するには、各国のレイシズムの比較研究と歴史研究の結合が必要であることが明らかになった。

そのために、各国のレイシズム・ゼノフォビアの具体的な経路依存性、現代イタリアの移民管理法とファシズム人種法との連続と断絶、北部同盟のレイシズムへの植民地支配の影響、北部同盟の反EU・地域主義・反移民・反ムスリムとレイシズムとの結合構造の解明、そして、ファシズムとの比較研究を行うことにより、「グローバリズム時代の新しいレイシズム」の特質の解明が可能になると考えた。

2. 研究の目的

1980年代後半以降フランス・イタリアなどで外国人排除・反移民を主張する「新右翼」政党が台頭してきたが、21世紀にはこの波は北欧にまで拡大し、ヨーロッパ各国のデモクラシーは新たな試練に直面している。本研究は、イタリアの北部同盟を分析対象に、グローバル化時代の新右翼政党の思想・政策・言動に存する「レイシズム」とファシズム期(総力戦時代、ナショナリズムの極限期)のレイシズムとの歴史的・理論的比較研究を通じて、この「グローバル化時代の新しいレイシズム」の特質を解明し、レイシズム理論や現代デモクラシー論の発展と、レイシズム・ゼノフォビアの克服のための方策の探求に貢献することを目的とする。

本研究においては、具体的には、第一に、

ファシズム期のレイシズムの歴史・思想・政策を実証的に分析する。そのために、ファシズムの「人種主義政策」に関する研究書とともに、ファシズム体制のレイシズムの思想と政策の理論・運動面の推進母体であった「La Difesa della razza」などの雑誌を蒐集し、分析する。また、イタリアの公文書館でファシズム期の政府・党の人種政策に関する資料を蒐集し、分析する。

この作業を通じて、イタリア・ファシズムのレイシズムの特徴を明らかにする。また、ポストコロニアルの視点からのファシズムの植民地支配に関する研究の検討を通じて、イタリアのポストコロニアル問題と新しいレイシズムとの関係に接近する。

第二に、北部同盟に関する研究文献だけでなく、機関紙「Lega Nord」の言説分析と北部同盟が統治する自治体の政治家・活動家・行政当局や市民団体への聞き取りによって、北部同盟のレイシズムの思想・政策・構造と特徴を明らかにする。

第三に、これらに基づき、ファシズムと北部同盟のレイシズムの歴史的・理論的な比較研究を行い、また、ヨーロッパの他の国の新右翼のレイシズムとの参照によって、「グローバル化時代の新しいレイシズム」の特質を明らかにする。そして、それらを基礎に、その後の課題として、日本を含め、ゼノフォビアとレイシズムの克服、共生社会の政策構築、現代デモクラシーの理論の豊富化への寄与を目指している。

3. 研究の方法

本研究は以下の3つの部分からなり、それを年次的に進める。

(1)ファシズムの人種主義政策やアフリカの植民地支配の研究文献を検討し、先行研究を踏まえる。ファシズムの人種主義政策やアフリカ植民地支配の研究文献の入手をしつつ、人種主義の指導的イデオロギーであるT. Interlandiらの雑誌「La Difesa della Razza」の重要論文や「L' impero」の論文の蒐集、公文書資料館や国立図書館での人種主義政策の一次資料の蒐集を行う。また、諸研究雑誌でファシズムのアフリカ支配やファシズムの人種主義特集が組まれてきた。これらの新しい文献をできるだけ網羅的に収集し、批判的に摂取する。

この二つの作業によって、ファシズムのレイシズムの思想と政策の概要を把握し、分析枠組みを構想し、次年度以降の研究の基礎を作る。

(2)北部同盟の言説分析とともに、北部同盟が統治する自治体の対移民政策、対ムスリム政策などについての政策研究を行う。そのため、政治家・活動家・市民団体などのヒヤリングを実施する。

(3)これらを元に、レイシズムの歴史的・理論的な比較研究を行い、「グローバル化時代の新しいレイシズム」の特質の解明と分析枠

組みの提示を行う。北部同盟に関する近年の研究書や雑誌論文では、レイシズムと不可欠な関係にある地域主義、Nativism、歴史観、移民問題、ムスリム問題などが論じられており、これらを手がかりに、理論的な把握を行う計画である。

また、イタリアでの聞き取りのために北部同盟を訪れる計画であり、機関紙 "Lega Nord" の重要論文・記事を蒐集し、言説研究に取り組む。

4. 研究成果

(1)ファシズムの人種主義・反ユダヤ主義政策とイデオロギーについての基礎資料を収集し、分析を開始した。ファシズムには当初反ユダヤ主義や人種主義思想はなく、イタリア・ユダヤ人の10人中3人がファシスト党に入党した経験があること、ファシスト政権の反ユダヤ主義・人種主義政策は1938年に突然打ち出されたこと、その背景には、ドイツの反ユダヤ主義政策への同調によるドイツとの同盟の強化とファシズムの活性化の企図という反ユダヤ主義の政治的側面と、エチオピアの植民地化後の帝国建設における人種の混交の回避、アラブ・アフリカ人への人種主義的な蔑視の側面が存在したことを明らかにした。

この研究成果は、『龍谷法学』に連載中である。イタリア・ファシズムの反ユダヤ主義政策、人種主義政策に関して日本では本格的な研究はなく、関係資料の日本語訳とともにナチズムの反ユダヤ主義との比較研究を可能にするものとして、研究者の関心と呼んでいる。今後もこの研究を継続し、発展させる予定である。また、イタリアの近現代史研究者との交流を進め、日本とイタリア、ヨーロッパ諸国のファシズムや新しいレイシズムの共同研究を今後、他の研究者とともに検討する。

(2)ファシスト政権はドイツやポーランドの絶滅収容所にユダヤ人を送っただけでなく、トリエステにイタリア絶滅収容所(リジエラ・サン・サッパ)を設け、自らユダヤ人の抹殺を行っていたことが分かった。そこを訪れ、関係資料を収集した。

(3)北部同盟が統治するブレシアやミラノの移民の状況、自治体の対移民政策に関する基礎資料を収集した。また、北部同盟の政策、イデオロギー、党組織構造、言説分析を行い、そのイデオロギーは、連邦制と権限移譲、家族の価値、ローカリズム、反政治とポピュリズムを特徴としていること、ローカル共同体の擁護と福祉を唱えるローカリズムは、エスノ・ポピュリズムの性格を持っており、激的なゼノフォビアを展開していることが明らかとなった。

この研究成果の一部を「ポピュリズムの多重奏」として、共著『ポピュリズム時代のデモクラシー』に発表した。この共著は日本では数少ないヨーロッパ新右翼のポピュリス

ムの本格的な比較研究であり、反EU、反ユーロ、反移民、反ムスリムを共通点とする新右翼勢力の台頭の背景、特徴、デモクラシーにとってのその意味の比較分析として関心と呼んでいる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

高橋進、「シティズンシップ教育について
の予備的考察 グローバル化時代のシ
ティズンシップのあり方を求めて」社会
科学研究年報、査読無、44号、2014、10
- 15

高橋進、「脱原発とイタリア・デモクラシ
ー 伊独日仏の比較のために」
龍谷法学、査読無、45巻3号、2012、
171-226

高橋進、「ユーロ危機、再国民化、ポピュ
リズム」公明、査読無、80号、2012年
8月、12-17

高橋進、「原子力発電とイタリア民主主義
の関係の考察のための準備ノート
「第二のフクシマ」を作らないために
」社会科学年報、査読無、42号、
2012、151-159

高橋進、「イタリア・ファシズムと反ユダ
ヤ主義・人種主義(1) グローバル化時
代の新しいレイシズムの分析のためにー
」龍谷法学、査読無、44巻4号、661-689

〔学会発表〕(計 2 件)

高橋進、「原発とイタリア・デモクラシー」
日本比較政治学会、2012年6月23日～
24日、日本大学

高橋進、「ムッソリーニとファシズム、そ
の時代」イタリア近現代史研究会、2013
年12月26日、早稲田大学

〔図書〕(計 2 件)

高橋進、法政大学出版局、脱原発の比較
政治学、2014年、「第10章 国民投票
イタリア」190-209

高橋進、法律文化社、ポピュリズム時代
のデモクラシー：ヨーロッパからの考察、
2013年、「第8章 ポピュリズムの多重
奏 ポピュリズムの天国：イタリア」
165-189

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

高橋 進 (TAKAHASHI, Susumu)

龍谷大学・法学部・教授

研究者番号：30136577

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：